

麻理のなか

4

ぼくは押見修造

I'm in the Mari.
#4
Shuzo Oshimi

双葉社
ACTION COMICS

ぼくは麻理のなか4

押見修造

contents

第 27 話	あの瞬間の麻理.....	5
第 28 話	楽しむぼくら	25
第 29 話	吉崎家の食卓Ⅱ	46
第 30 話	ぼくは麻理を見る	67
第 31 話	麻理がぼくを求めている.....	87
第 32 話	ぼくの求めていたもの.....	107
第 33 話	「私、麻理だけど」.....	127
第 34 話	女子高生の聖域Ⅱ	147
第 35 話	「親友?」	167
	あとがき.....	188



















YOU
STILL
THAT
BUT



...AND ALL
OF MY
MEMORIES
ABOUT
MAMU-KAN
WENT THE
WIND WITH
BUT

IT
WASN'T
THE
LAST...

...AND
I WENT
STILL
AND
THAT
MOMENT...



THE
FIRST
THIS NEW
MAMU-KAN.

BUT
MAMU-KAN
NOT EVERY
MAMU-KAN
ON



You don't
know how
good you
have it.

...AND
STILL...



...





FOR
APP...

...NOT
HIDE!



LET'S GO
OUTSIDE.



...NOT





















CHAPTER 28: ENJOYING OURSELVES





















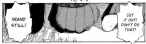


















CHAPTER 29
DINNER AT THE YOSHIZAKI HOUSE I



SHUZO OSHI

























DON'T
RUN AWAY.
YOU NEED
TO GET
THROUGH
THIS
THING.

EVEN
IF IT'S
HARD.
LET'S
WORK ON IT
TOGETHER.



OKAY?











YOU'RE THE
ONE WHO
STARTS ON
PUTTING
EVERY-
THING INTO
MONEY!



IF
YOU'VE GOT
A PROBLEM
WITH ME,
SPIT IT
OUT!



YOU'VE
NEVER
LISTENED
TO ME!



RIGHT?
WHEN
HARD WE
EVER
TALKED?

You're
lucky.





CHAPTER 30: I LOOK AT MARI











































CHAPTER 31 MARI IS SEARCHING FOR ME









































CHAPTER 32: WHAT I'VE BEEN SEARCHING FOR















WANTED
TO
BECOME
YOU







I WANT
YOU

PARL

FELT
INTO
YOU

UNHH....



WHO
ARE
YOU?

















CHAPTER 33: I'M MARI















C
R
A
C
K
L
E





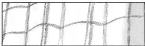


Call Duration
01:15























CHAPTER 34: HIGH SCHOOL SANCTUARY I











































CHAPTER 35: BEST FRIENDS?















WARRING WITH
EVERYONE
THROWING
STUFFS AT YOU
YOUR JOURNAL
BOYFRIEND
MOM, OR
GRANDPA OR
YOU...

YOU
DON'T
FORGIVE
MOM, YOU
TALK ABOUT
HER...



...AND
THROW THE
TWO TO GET
OUT YOU
MARRIAGE
WAS JUST
BULLSHIT.

YOU FOR
HER AND A
NATION-
BUILT
MURDER...



IS THAT
FIRST
FRIEND
POSS?



IT'S
BETTER
TO BE
ALONE.

IF
THAT'S
THE
CASE, WHO
HAPPY
SHIT?



...HMM-
TAD-
DART?

RIGHT...























to be continued

エロスなること探訪

— 目覚め編 —



小学校一年生のとき、

教室のどうきんがけをしていたのですが……

見た瞬間、

「これは見ちゃダメだ」という命令が脳に下り、

すぐに目をやりました。

何ですかね、「見たらその子に悪いから」とかでは無くて、

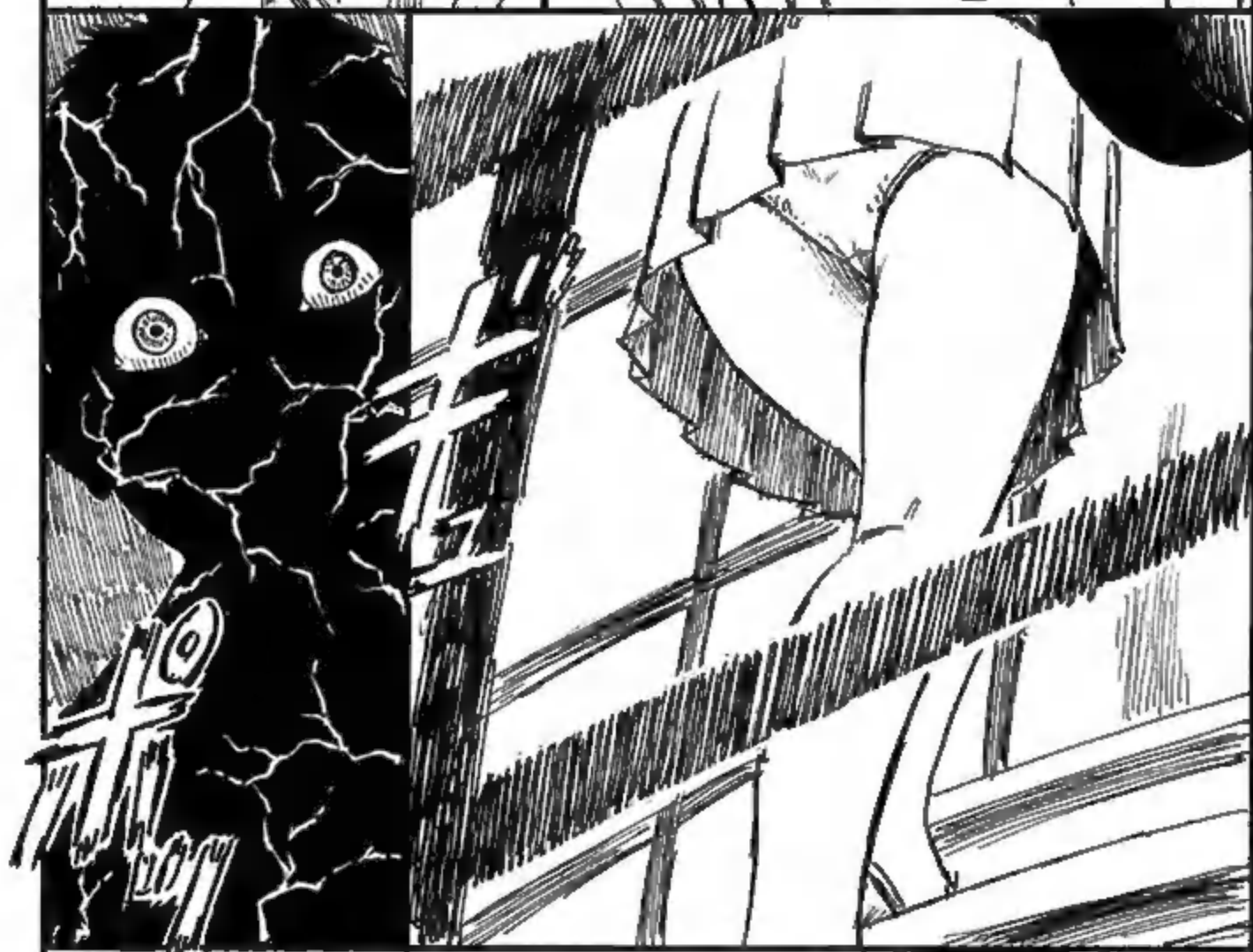
「見たら罰を受ける」みたいな恐怖感がありました。抑えられてたんでしょうね。



母と2人で、
フーストフッドで
食事してたんです。

買いの物帰り
とかだったですね。

ふと上を
見上げたら……



その瞬間、
スイッチが入ったのが
わかりました。

勃起したか
どうかは覚えて
ないんですが、

今までモヤモヤと
形にならなかつた
ものが、

一斉に方向が
そろったみたいなの
を感じてた。

その時は、
母の目を盗んで
何度かチラ見した
と思います。

それは既に
「レジスタンス的行為」
でした。

以上が僕の性の
黎明期存のですが、



最初、から自分は
変わ、ていないんだなあと、思います。

女の子は下から、
そして後ろから見上げる
もの。

足を中心に。

受け身で
マクロで、

抑圧に
あびえて、

そして性は
反抗の手段。

ご静聴
ありがとうございました。

次巻もぜひ
よろしく
お願いします。

「うるさいヤリマンども
私の友達は依よりさんだけだ」

「麻理王さんから
電話がきたんだ」

「…昨日オナニーしてたときに」

——ぼくと依は、麻理からの電話を待つ。

そして、ぼくと依の距離は縮んでゆく——